

タイトル	(和文) 日本の農林水産物輸出額の決定要因に関する実証分析 (英文) Empirical analysis of the determinants of Japan's agricultural exports		
(フリガナ) 氏名	サクヤマ タクミ 作山 巧		
キーワード (3語)	農林水産物輸出額 回帰分析 実質実効為替レート	ご所属	明治大学
<p>(和文要旨 40字×5行 200字以内)</p> <p>日本の農林水産物輸出額の決定要因を解明するために、輸出額を被説明変数、実質実効為替レート指数、世界の1人当たりGDP、訪日外客数、農林漁業の国内生産額を説明変数とし、1980～2019年の時系列データにより、両対数式で回帰式を推計した。農林水の全品目で実質実効為替レート指数が統計的に有意で弾性値も大きいことから、名目為替レートやデフレ等を加味した日本の輸出価格が輸出額変動の主因と結論づけられた。</p>			
<p>(和文報告概要 40字×40行 1,600字以内)</p> <p>日本の農林水産物の輸出額は新型コロナ禍でも増加を続け、2021年には1兆1,574億円となり、1兆円の目標を達成した。また、2020年には、2030年までに5兆円とする目標も設定された。</p> <p>他方で、輸出に関する先行は、特定の品目や地域を対象とした事例分析が大半を占めている(石塚・神代2013、下渡2018、福田2016、同2019)。また、輸出額の決定要因については、重力モデルを用いた実証分析が見られるが(島田・齋藤2013、同2014、渡辺2019)、それは二国間の貿易額を説明するもので、輸出総額の変動要因を説明するものではない。政府の輸出目標は総額で設定されていることから、それとの関連で政策的に重要なのは輸出総額の決定要因の解明である。</p> <p>このため本報告では、日本の農林水産物輸出額を被説明変数とした回帰分析を行う。説明変数としては、輸出額は海外の輸入需要と日本の輸出供給で決まることから、前者は、実質実効為替レート指数(日本の輸出価格の代理変数)、世界の1人当たりGDP(海外の所得の代理変数)、訪日外客数(日本食ブームの代理変数)、後者は、農林漁業の国内生産額(国内供給額の代理変数)を用いた。回帰式は、1980～2019年(40年間)の年次の時系列データで推計し、農産物、林産物、水産物の品目別でも行った。なお、回帰式はトレンドを除去するために両対数式で推計し、係数は説明変数が1%変化した場合の被説明変数(輸出額)の変化率を表す弾性値となる。</p> <p>1980～2019年の40年間を対象とした弾性値の推計結果は、第1表の通りである。全ての品目で実質実効為替レート指数が統計的に有意だったことに加えて、農林産物では訪日外客数、林水産物では国内生産額が統計的に有意だった。これによって、名目為替レートやデフレ等を加味した日本の輸出価格が農林水産物の輸出額に大きく影響していることが分かった。また、決定係数は0.8～0.9程度と極めて高いことから、輸出額の変動の多くは、農林水産業を超えたマクロ的で他律的な要因で説明され、これまでの輸出促進政策の効果は大きくないことが示唆された。</p>			

なお今回は、自然対数をとることでデータが定常になったと仮定して分析を進めたが、定常性の検定までは行っていない。このため、厳密には augmented Dickey–Fuller test (ADF 検定) 等による単位根検定を実施した上で、自然対数への変換でもデータが定常にならない場合には、階差系列を用いた回帰分析の実施が今後の課題である。

第 1 表 弾性値の推計結果

説明変数	農林水産物			
	農産物	林産物	水産物	
実質実効為替レート指数	-1.19***	-0.83***	-2.06***	-1.46***
世界の 1 人当たり GDP	-0.21	-0.21	-0.34	-0.00
訪日外客数	0.24***	0.39***	0.38***	0.06
国内生産額	-0.01	-0.55	0.83***	0.47**
自由度修正済み決定係数	0.91	0.89	0.83	0.87

注：***は 1%、**は 5%の水準で統計的に有意なことを表す。

引用文献

- 石塚哉史・神代英昭編著(2013)『わが国における農産物輸出戦略の現段階と展望』筑波書房
- 島田大器・齋藤勝宏(2013)「日本の農林水産物・食品輸出の潜在可能性の推計」『2013 年度日本農業経済学会論文集』222～226
- 島田大器・齋藤勝宏(2014)「日本の農産物輸出の潜在可能性について」『2014 年度日本農業経済学会論文集』218-222
- 下渡敏治(2018)『日本の産地と輸出促進』筑波書房
- 福田晋編著(2016)『農畜産物輸出拡大の可能性を探る』農林統計出版
- 福田晋編著(2019)『加工食品輸出の戦略的課題』筑波書房
- 渡辺正(2019)「日本の農産物輸出の決定要因」『宮崎産業経営大学経営学論集』29(1):31～41

過去類似した発表（論文等を含む）がある場合、その研究との関連性および相違点について明記してください。

今回の報告は、拙稿（作山巧(2021)「輸出偏重農政の功罪：5 兆円目標の妥当性を評価する」『日本農業年報』66:101-111）を発展させたものである。その分析対象や手法は基本的に今次報告と同様だが、推計期間が 1990～2019 年の 30 年間と短いことに加えて、説明変数も「対ドル為替レート」と「日本を除く東アジア諸国の GDP」のみで説明変数のカバレッジが不十分だった点等の改善を図った。